



N.S. ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1100

13.04.2024 (135)

ミヒャエル・キューネン (Michael Kühnen)

第二の革命 第一巻：信仰と闘争

第13部

シオニスト世界の疫病と戦う

この章は、私の著作の中で最も難しい章だと思います。このテーマがあまりに複雑だからというわけではなく、終戦後、フィロソミズム（ユダヤ人に対する友好）が公式に定められたからである。ユダヤ人問題は、民主主義者の信仰世界における最大かつ最も神聖なタブーであり、これに触れる者は災いを受ける。今日、ドイツではユダヤ人はアンタッチャブルであり、いわば法律で保護されているのだ。彼らに批判が当たることは許されず、彼らの行動は観察されず、裁判になることはほとんどなく、少なくとも刑はずっと軽い。

50年代末、シナゴークに鉤十字のアクションが殺到してセンセーションを巻き起こしたとき、制度は最高刑5年の § 130 - § 131 Judenschutzparagrafenを導入しました。つまり、今日、西ドイツでは、西側民主主義諸国、特に

FRGにおいて、シオニストの策略を暴露しようとするよりも、車に侵入したり、少女をレイプしたりする方が簡単で危険も少ないのです。1977年10月16日、私の運転する自動車から、「反ユダヤ」ポスターの束が警察によって発見された。私が貼ったとは証明されなかったが、私は10ヶ月の懲役と執行猶予を言い渡された。その文章はユダヤ人問題とはまったく関係なく、1946年に帝国政府のメンバーの処刑を計画し、推進し、強制し、最後に実行した人々に向けられたものであった。それはこう書かれていた：

1946年10月16日、ユダヤ人・ボルシェビキ

亜人種は、

私たちドイツ帝国政府を殺害しました。

彼女は"ドイツ万歳!"という言葉を残して亡くなった。

あなたの人生-あなたの死：

私たちのコミットメントです！

戦いが始まる！

1978年夏、ヴォルフ・ディーター・エカルトは、NSDAP友の会のニューズレターに反ユダヤ的な記事を掲載したことを主な理由として、仮釈放なしの2年間の禁固刑を言い渡されました。これらの判決は、若い世代が主張される意見の自由に対する信頼を高めるものではなく、シオニストの長い腕はほとんどどこにでも、特にドイツの法廷を占領しているところにも伸びているという確信を強くするものである。したがって、「シオニストの世界的疫病との闘い」という見出しで、私がこの国家社会主義運動の反対者についても、勇気を持って、正直に、公然と扱うことは危険である。

真実は語られなければならないので、長く監禁されてもかまわない。

政治家、民族、将軍、戦争や戦闘、選挙結果や会議など、既知の歴史の背後には、まだ見えない歴史がある。それは、灰色のエミネンス、匿名のアドバイザー、隠された利益団体、そして最後に、最も多様な種類の秘密結社の歴史である。そして、この秘密めいた闘争を垣間見ることができるのは、ごくたまにしかない

:

そして、フリーメイソンと薔薇十字団の秘密結社が皇帝の宮廷で影響力を争ったこと、奇跡の僧ラスプーチンがロシアの政治に力を与えたこと、フランス革命を引き起こしたイルミナティとロシア二月革命を引き起こしたフリーメイソンについて驚きを持って知る。神秘的で致命的な誓いの言葉も耳にする：

イタリアのカルボナーリは死の脅迫でナポレオン3世のイタリア政策を左右し、セルビアの秘密結社-ブラックハンド-はサラエボでの暗殺で第一次世界大戦を引き起こし、匿名の権力集団-アメリカでは「インサイダー」と呼ばれる-は現代西洋政治を支配した。

マフィアとビルダーバーガー、フリーメイソンとCFR、イルミナティと薔薇十字団、さらにOAS、クー・クラックス・クラン、トゥール・ソサエティ、これらは謎に包まれた権力集団の名前の一部であり、今もその一部である。しかし、その中でも最強の影響を持つのは、立派な共同体意識と高慢な選択権の主張によってまとめられた、宗教共同体の仮面をかぶった人々である。その背景にある最強の権力者、アーリア人の再生に最も恐ろしい敵は、-シオニズムである！

アラブ世界にとって、この言葉は外国による支配、抑圧、征服妄想の象徴となった。国連は、世界の圧倒的多数の国家とともに、シオニズムを粛々と非合法化している。シオニズムとは、言われているように、パレスチナに自分たちの国民国家を作り、維持しようとするユダヤ人の願望ではない。イスラエルという国家は、単なるブラフである！イスラエルは、シオニズムの世界的な願望のために安全な活動拠点を提供する役割を果たし、それ自体で見ると、世界ユダヤとその下僕の支援なしには全く実行不可能である。

私たちは、シオニズムを世界のユダヤの組織的な権力と定義しています！

ユダヤ人問題は、まず人種的な問題ではなく、ヴォルキッシュ・文化的な問題です。私たちは、ユダヤ人だからといって、ユダヤ人個人と戦うわけではありません！私たちにとって、ユダヤ人は他の人と同じ人間であり、それに従って行動する限りは、他の人と同じである！しかし、私たちは、ユダヤ人の特別な権利と、外国人の意思を諸国に押し付けようとするシオ

ニストの試みには、断固として反対する。

まず、はっきりと明確に述べるべきはユダヤ教は宗教ではなく、民族である！

シオニストたち自身が常に公然とそう宣言している。したがって、ドイツにおけるユダヤ人少数派も、"信教の自由"という言葉には当てはまらないのです。宗教的告白の自由は、私たちによって完全に保証されています：国家社会主義は宗教ではなく世界観であり、その結果、カトリック、プロテスタント、自由思想家、神を信じる者、新異教徒であろうと、良いドイツ人になることができます。しかし、ある民族が宗教的共同体のふりをし、その結果、宗教的寛容を乱用しようとするならば、私たちはそれを容認することはできない。例えば、"ドイツ・カトリック"のことは話せても、"ドイツ・ユダヤ"のことは話せない！？ドイツ系ユダヤ人」は「黒カビ」あるいは「白ニグロ」である。

ユダヤ人は、たとえドイツで生まれたとしても、ドイツ語を話すとしても、いかなる場合でも、外国の人々の一員であり、したがって客人であることに変わりはなく、それに応じて行動しなければならない！

この声明は、シオニスト運動のすべての声明と一致する：

人はいくつかの国籍を持つことができるが、一つの民族にしか属することができない！このため、ユダヤ人の問題は、極めて単純に忠誠心の分裂の問題である。ユダヤ人が一般に並外れた能力と知性を備えていることは否定できない。彼らは、特にビジネスや商業の分野だけでなく、政治やジャーナリズムの分野でも、どこでもすぐにトップの地位や要職に就くことができる。

このように、今日、ほとんどすべての西洋諸国において、ユダヤ人が権力の中枢に座っていることがわかる。最も顕著なのはアメリカであり、もちろん、最も貴重な植民地である占領下のドイツ共和国でも同様である。たとえユダヤ人が権力の座を乱用することを望んでいないと仮定しても、ユダヤ人（あるいはイスラエル人）とドイツの利害が対立したときに彼らがどう行動するかという疑問は残る。私たちの民族の政治と未来にかなりの

影響を与えるのが、他の、外国の、おそらく敵対する民族のメンバーであるという事実を好まないのは、誰にとっても理解できることであろう。

このことは、誰が実際にユダヤ人で、誰がそうでないのかが一般に知られていないために、なおさら真実である。今日のユダヤ人は、権力の座に就いていても、自分の正体を明かすことはほとんどない。このような忠誠心の分裂の問題は、理論的なものでも、突飛なものでもない。例えば、CDUの有力政治家エリック・バーネンフェルドは、イスラエルの新聞に寄せた記事の中でこう書いている：

"私たちは、小さなイスラエルのために最高のものを実現するために、来年も共に立ち向かっていきます。"

しかし、ドイツ人とユダヤ人の間に利害の対立はあり得ないとする人は、ある条件下でのみ正しいのである！明らかに、これはまさに戦後のすべての政府の政策であった：

国交樹立によって、第二次世界大戦中に存在しなかった国家への「補償」として数十億の貢ぎ物が犠牲になっただけでなく、当初は偉大なアラブ諸国との伝統的で貴重な友情も失われました。

イスラエルの征服は、ボンによって、理解できる「安全保障上の利益」を理由に弁解された（この議論は、1941年にドイツ国防軍がソ連に対して行った先制攻撃についても、同じ紳士が認めないものである、ソ連の戦争将軍で後にROA司令官になったブラソフ将軍の証言によれば、ドイツの攻撃は、ロシアの配下に直接侵入した）。国連のシオニズム決議では、FRGは、ドイツの利益を守るためにしばしば惜しまれながら見過ごされる勇気をもって、世界の他の国々の確信に立ち向かった。占領政府は、PLO「パレスチナ解放機構」との外交関係の樹立を拒否している。シュプリンガー・フェアラークという最大の出版社の解説やニュースは、出版社自身が認めているように、戦後のジャーナリズムで最も影の薄い人物の一人であるエルサレムからの政府声明のように読まれている。

これらすべては、ドイツ政治がイスラエルと世界ユダヤの利益に隷属的に服従していることの明確な証拠である。ドイツに3万人しかいないとされ

るユダヤ人ほど、強大な権力を持ちながら、その影響力を一心不乱に行使しようとする少数派は、おそらくドイツには存在しない！私たちはそれを変えてみせる！

ユダヤ教は他人と同じ民族ではありません：

1000年以上もホームレスで、迫害され、軽蔑されながら、生き残った理由はたった2つだけです：

ユダヤ人は世界のどの民族よりも人種の純度に注意を払っていた。昔も今も混血結婚はほとんどなく、宗教的に禁止されている混血結婚に対して、ニュルンベルク人種法は直接的に自由主義的に見える。

宗教は、何世紀にもわたって虐げられてきたこの民族に、自分は地上の他のすべての民族よりも優れている、神に選ばれた民族であるという確信を与えた！- そして、いつの日か世界を支配するのだ。宗教的戒律が一般のユダヤ人にラビや律法学者に対して課す厳しい服従は、「シオンの賢者」が、たとえ個々のユダヤ人がシオニズム政策の意味と目的について不明瞭な考えしか持っていなくても、偉大な計画に従って国民を導くことができることにつながる。宗教は、ユダヤ人に、いつか世界を支配するために神に選ばれるという確信を与える。- シオンの賢人たちは、実際に今この世界を支配するために、緻密な計画に従っている。こうしてシオニズムは世界の疫病神となった。シオニストとその意識的、無意識的な助っ人は、重要な地位を占め、秘密結社を支配し、報道帝国を創設し、政府に影響を与え、大企業を支配し、ボルシェビズムを道具としてさえ使っている。

信じられないような話ですが、シオニストの利益と対立したことのある人は、たとえ偶然であっても、この力をすぐに知ることができます。シオニストの利益と対立したことのある人は、たとえそれが偶然であったとしても、すぐにこの力を知ることになるのです：

『STERN』の記事、フランクフルトのユダヤ人土地投機家の策略を描いた左翼作家の戯曲、ユダヤ人という負のキャラクターが登場する小説の撮影計画、パレスチナ人の生得権に関する政府メンバーの演説--すぐにシオニス

トの力を感じることが出来ます：

シュテルンは謝罪し、戯曲は配布されなくなり、小説は映画化されなくなった。しかし、このことは、特別法の下で生きなければならない国家社会主義者に対する行動以上に、外国人の持つ否定され続ける力がいかに強いかを端的に示している！

シオニスト政治と謎めいた「シオン賢者の議定書」の対応関係は、驚くべきものであり、示唆に富んでいる。このシオニストの議定書は、歴史上最も有名な反ユダヤ主義の書物であり、ほとんどの人がその名を聞いたことがあるが、読んだ人はほとんどいない。シオニストたちはこの本を偽書だと主張し、世界的な出版禁止令を出したが、これは良心の表れではないと私は思う。

『シオン賢者の議定書』は、1897年にバーゼルで開催された第1回シオニスト会議の審議記録で、ユダヤ人の世界支配を実現するための計画が決定されたとされるものである。しかし、この謎めいた書物について、かつてヘンリー・フォードがこう言ったことを、「責任ある」市民が自分の意見を形成する機会を与えるために、この書物が再び自由に入手できるようになれば、それは正しいことだと私は思う：

"プロトコルが本物か偽物かなんて、どうでもいいんです。そこに書かれているとおりの出来事が起こったということだけを知っている。"

シオニズムの究極の目標は、いずれにせよ、世界支配、「一つの世界」の概念であることは明らかである。そして、シオニストは、バーゼルの会議からやっと一世紀が過ぎた今、この目標に大きく近づくことに成功した。シオニズムの力は巨大である！

当然ながら、西側の民主的な社会はシオニストの影響を非常に受けやすい。しかし、共産主義の中にも、シオニストは当初、権力への努力のための理想的な道具を見つけた。しかし、世界征服への道には常に大きな障害があり、それはシオニストの手法にほとんど影響を与えないことが証明された。一時的に、彼らは重要な地位を占めることに成

功ただけで、民主主義の考え方は今日でもほとんど受け入れられず、マルクス主義は激しく拒絶されている。この障害は、社会的にも経済的にも、ほとんどの部分が進歩の最先端に行く大国であり、東西の影響から自らの本質を守ろうとし、徐々に大きくなるシオニストの勢力圏に敏感に反応するものであった。その障害物とはドイツである！

ドイツは、今世紀に入ってから、望むことなく、真の敵対者の役割を果たすようになったのです。ドイツに対するシオニストの闘いに対するこの無知が、我々の破滅を招き、我々の最近の歴史の大きな破局を引き起こし、今日我々を完全に依存と従属の状態に置いているのです。しかし、理解するのは難しいことではない：

もともとの反ユダヤ主義は、すべての国にとって自然なもので、異質なもの、脅威となるものに対する自然な防衛反応として、西側民主主義諸国での再教育や、極めて反ユダヤ的なロシアでの暴力によって、シオニズムによって徐々に克服されていきました--ドイツだけがシオニズムをコントロールすることができなかったのです。そのため、シオニズムはドイツを2つの世界大戦に追い込んだのです！

第一次世界大戦では、オランダに亡命していたヴィルヘルム2世がこれを確認した。1933年と1939年にユダヤ人世界会議が行った国家社会主義ドイツに対するユダヤ人の宣戦布告、明らかにポーランドを口実にしただけのイギリスの宣戦布告-同じく侵攻してきたソ連に対する宣戦布告の拒否とその後の連合ポーランド亡命政府の裏切りが十分に証明している-、アメリカの参戦は、第二次世界大戦のための明確な言語を語っている。

しかし、第一次世界大戦後、当初は、ドイツにおけるシオニズムはその目的を達成したかのように思われた。実際、まだ戦っていた戦線を解散させ、最終的に敗北に導いた1918年11月の反乱の指導者にユダヤ人が非常に多く含まれていたことは、良識ある観察者たちをも驚かせました。しかし、1918年に完成した反逆罪におけるユダヤ人の割合は

言うに及ばず、前線におけるユダヤ人の割合と、舞台や本国での職務怠慢の割合との間に著しい不釣り合いがあることを否定することはできないのである。

家庭戦線の崩壊に責任があったのはシオニストであり、ヴェルサイユ独裁の受け入れを提唱し、何十年もの隷属を計画したのもシオニストであったという事実を無視することはできない。スパルタシストの蜂起に主導的な役割を果たしたのはシオニストであった。KPDの創設に弾みをつけたのもシオニストだった。ミュンヘン・ソビエト共和国を立ち上げたのもシオニストであった。ワイマール共和国がシオニストの植民地であり、「ユダヤ人の共和国」であることはすぐに明らかになった。ドイツの愛国者たちは、その理解できる苦い思いから、今日の我々とは異なり、個々のユダヤ人とシオニストの脅威を区別することなく言った。シオニストは、民主主義政党やマルクス主義政党、労働組合を支配し、政府に席を置き、大きな出版社を所有し、文化生活を支配していた。

(1979.3.6の追記：

当時のユダヤ人の影響力については、世界ユダヤ人会議の長年の議長であったナフム・ゴールドマンに勝るとも劣らない人物が、1979年1月26日の『ZEIT』にこう書いています：

"4大銀行（ドイツ銀行、ドレスナー銀行、ハンデルスゲゼルシャフト、デイスコントゲゼルシャフト）にはユダヤ人の役員がおり、3大日刊紙（ベルリンターゲブラット、フォッシュェツァイトウング、フランクフルターツァイトウング）はユダヤ人の所有でほとんどがユダヤ人によって編集され、2大影響力のあるドイツ雑誌（ファッケル、ウェルトビューネ）はユダヤ人によって運営されていたのです。"

シオニストは-勝利の寸前まで来ているように見えた。しかし、彼らは、ドイツにおけるシオニストの力を打ち砕くことに成功した。このことは、かつて多くの同志が、敵の巨大な優位性の前で絶望したと

き、私たちにとって希望となりうる。国家社会主義は、我々の時代の最初の偉大な反シオニスト運動であった。国家社会主義は、今日、この世界の大多数の国家、アラブ民族全体、そして多くの誠実で反シオニストな左翼の賛同を得るであろう政策について非難される。ドイツの再生、わが民族の目覚めによって、ドイツ国民は再び、世界支配を目指すシオニストの計画に対する決定的な障害となった。ユダヤ人の宣戦布告は即座に行われ、わが祖国に対する第二次滅亡戦争の勃発は時間の問題であった。



NS KAMPFRUF
KAMPFSCHEFT DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFBAUORGANISATION

September 1944 September 1973 26. April 2017 (100)

Der Kampf geht weiter !

Seitlang Jahre nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung wieder da, zu genau in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Kolonialisierung, Versklavung, Vertreibung und Verdrängung haben nicht aufgehört, das Kern der gesamten Idee unseres hoch geliebten Führers Adolf Hitler zu entwickeln.

Alle Nationalsozialisten sind sonderlich erlebter, Nerven und Kampfesgeist sinden Schicksal an Schicksal an Kampf um die Erhaltung unserer weißen Völker.

Die Bewegung ist zwar wieder geworden, aber die Größe des biologischen Völkertums ist heute noch nicht größer als in der Vergangenheit.

Der menschliche Körper ist alles andere, der Völkertum - gegen alle weißen Völker (V) - zu kämpfen, keine Mittel und Einrichtungen, Überforderung und Kampfesgeist.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Straßenkampf, ob auf Propagandaplattformen, oder auf einem Schiffsfeld oder auf dem Felder.

Hitler!
Gottard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー

第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものですね。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主に Adolf Hitler and the Army of Mankind (www.mourningtheancient.com/truth.htm)に集中して取り扱っています。現在21ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の物語は、まさに情報源の豊富さです。1つのことについて情報を集めても、さらにはつづつと調べたいことが出てくる。まるで、埋も



the **NEW ORDER**

Number 179 (177) Founded 1973 April 26, 2022 (100)

The Fight Goes On !

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware Europeans and racial kinemen fight side by side for the preservation of the white folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is now much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture distortion, and re-education.

Whether "legal" or "illegal", whether in election battle or street battle, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind every National Socialist must do his duty!

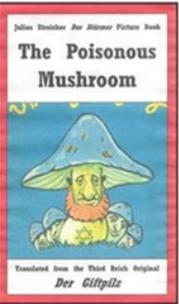
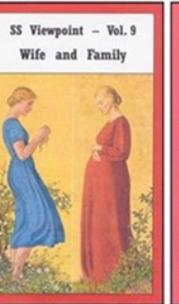
Hitl Hitler!
Gottard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト

<p>SS Defender against Bolshevism by Reichführer SS Heinrich Himmler</p>  <p>Translated from the SS Original</p>	<p>Julius Streicher der Führer Führer Book</p> <p>The Poisonous Mushroom</p>  <p>Translated from the Third Reich Original Der Giftpilz</p>	<p>Reinhold Kellmann</p> <p>Hitler in Italy</p>  <p>English / German Deutsch / English</p>	<p>SS Viewpoint - Vol. 9 Wife and Family</p> 	<p>Theodor Fritsch</p> <p>The Sins of High Finance</p> 	<p>Luftwaffe War Art Die Luftwaffe im Bild</p>  <p>English - German / Deutsch - English</p>
---	---	--	---	--	--

BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com



NSDAP/AO
Fight Back!



nsdapao.org
Contact us to
find out how
YOU can help!